

中間評価（表紙）

香取市 歴史的風致維持向上計画（平成31年3月26日認定）
中間評価（令和元年度～令和5年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物や歴史的町並みの保存と活用	3
II 歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備	4
III 伝統的な祭礼行事の継承と記録	5
IV 歴史的文化資産の調査と情報発信	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 文化財等の活用方法の拡大	7
ii 歴史的風致と調和する環境整備	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 三菱銀行佐原支店旧本館保存整備事業	9
B 複合公共施設整備事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 佐原の町並みと山車行事に見る歴史的風致	11
2 伊能忠敬（ちゅうけいさん）に見る歴史的風致	12
3 小見川の町並みと祇園祭に見る歴史的風致	13
4 香取神宮信仰と式年神幸祭に見る歴史的風致	14
5 側高神社のひげなで祭に見る歴史的風致	15
6 山倉大神の鮭祭りに見る歴史的風致	16
7 十二座神楽に見る歴史的風致	17
8 獅子神楽・獅子舞に見る歴史的風致	18
■ 庁内体制シート（様式6）	19
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	20
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	21

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	佐原の町並みと山車行事に見る歴史的風致	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ	
2	伊能忠敬(ちゅうけいさん)に見る歴史的風致	Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ	
3	小見川の町並みと祇園祭に見る歴史的風致	Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ	
4	香取神宮信仰と式年神幸祭に見る歴史的風致	Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ	
5	側高神社のひげなで祭に見る歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ	
6	山倉大神の鮭祭りに見る歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ	
7	十二座神楽に見る歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ	
8	獅子神楽・獅子舞に見る歴史的風致	Ⅲ，Ⅳ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物や歴史的町並みの保存と活用		
Ⅱ	歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備		
Ⅲ	伝統的な祭礼行事の継承と記録		
Ⅳ	歴史文化資産の調査と情報発信		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	文化財等の活用方法の拡大		
ii	歴史的風致と調和する環境整備		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	三菱銀行佐原支店旧本館保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	複合公共施設整備事業	その他	

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
方針	I 歴史的建造物や歴史的町並みの保存と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- ・課題
特に歴史的建造物について、指定等文化財の保存・活用、未指定文化財の把握・保護、防災体制の整備、高額な修理費用。
- ・方針
指定等文化財は法令に基づき適切な維持管理を図る。未指定文化財は把握に努めるほか支援の方法等を検討する。建物耐震性の強化と防火体制の整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業	県指定建造物の耐震補強及び創建当初への復元を実施	あり	R1～R4
2	香取市佐原伝統的建造物群保存地区保存整備事業	5件の修理補助（R1～R5）	あり	H8～
3	歴史的建造物活用促進事業	毎年実施	あり	H27～R5
4	小見川の町並み調査事業	歴史的建造物141件把握、33件調査	あり	R2～R3
5	個人所有文化財への補助	修理補助8件、災害復旧10件（R1～R5）	なし	R1～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●指定等文化財保存修理

- ・三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業
県指定文化財の三菱銀行佐原支店旧本館の耐震補強・復元を実施し、令和4年度より公開を再開した。保存修理報告書は市HPでダウンロード可能としているほか、館内でモバイルガイドやタッチパネルで周知や情報提供を行っている。
- ・香取市佐原伝統的建造物群保存地区保存整備事業
重伝建地区内の伝統的建造物等に対して5件の修理補助を実施した。
- ・個人所有文化財への補助
修理の要望や災害時の復旧に対応し、修理補助8件、災害復旧10件を実施した。

④ 自己評価

指定等文化財保存修理を進めることで、歴史的風致の向上や防災体制の強化に繋がった。特に三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業では、文化財修理の進め方を示すことができたほか、東日本大震災の被災地として復興が進んだことをアピールできた。

⑤ 今後の対応

指定等文化財については今後も文化財保護法などに基づき、適切な保存・活用を図る。未指定文化財は把握に努め、市内に所在する文化財「香取遺産」の保存・活用について、香取市文化財保存活用地域計画と連動しながら対応を進める。



三菱館竣工式典

R4.4.9



小見川の町並み調査事業

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅱ 歴史的建造物や歴史的町並みと調和する 周辺環境の整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- ・課題
景観を損ねる建築物や工作物が依然として見られるほか、電線の地中化が十分でない。観光客を受け入れるための設備（駐車場、トイレ、案内、休憩所）の不足。
- ・方針
香取市佐原伝統的建造物群保存地区保存計画などと整合を取りながら、観光客を受け入れるための設備（駐車場、トイレ、案内、休憩所）の整備を進める。また、外観の修景や空き家の活用、電線の地中化を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への 位置付け	年度
1	電線地中化事業	市予定箇所は実施済、県事業実施中	あり	R1
2	公園整備事業	令和元年度に実施	あり	R1
3	複合公共施設整備事業	令和4年度竣工・供用開始	あり	R1～R4
4	空き家の除却	景観を阻害し危険な空き家の除却	なし	R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 重伝建地区内事業
 - ・公園整備事業
さわら町屋館の整備により、町並みの回遊ルート内に不足していた休憩所とトイレの問題を解消し、店舗やイベントスペースとしても活用が進んでいる。
 - ・空き家の除去
倒壊の危険があり、景観を阻害していた空き家の除却を実施し、景観の向上が図られた。
- 複合公共施設整備事業
令和3年度・4年度にかけて事業を実施し、令和4年12月にオープンした。地域の情報発信及び図書館・ホール等貸出施設など多様な機能を有した施設として使用されている。

上川岸小公園(さわら町屋館)

複合公共施設(コンパス)

④ 自己評価

- ・公園整備事業により町並み回遊ルート上の課題が解決し、活用の拠点として機能するようになった。複合公共施設の整備により人の流れが変わるなど、歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備が進んだ。

⑤ 今後の対応

町並みを構成する伝統建造物は個人所有で占められているが、適切なコミュニケーションを図りながら適切な対応を図っていく。個人で対応が難しい問題については、行政側で対応できる課題解決を進める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅲ伝統的な祭礼行事の継承と記録	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- ・課題
重要無形民俗文化財である佐原の山車行事をはじめとする伝統的な祭礼行事について、担い手不足、用具の修理・保管、修理の人材確保など多くの課題がある。
- ・方針
維持向上のための各種の支援策、記録保存等を図る。祭礼行事で用いる用具の修理についての適切な助言や支援の案内、祭礼の形態や技術等の記録保存を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	山車保存整備事業	要望に応じて実施(R1～R5)	あり	H29～
2	山車実測調査事業	5件の調査実施(R1～R5)	あり	H29～
3	山車蔵調査事業	全町内の調査実施(R1～R5)	あり	H29～
4	写真・映像資料調査事業	11件の調査実施(R1～R4)	あり	H29～
5	香取市里神楽事業	公演会2回実施、講演映像3回作成	あり	H25～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 佐原の山車行事関係
 - ・山車保存整備事業
各町内の状況に応じて、専門家の意見を聴きながら、各町内で保持する山車の用具の修理を進めた。
 - ・山車実測調査事業
毎年1件の調査を進めたほか、山車所有町内に許可を得てデータの一般公開を開始した。
- その他市内祭礼関係
 - ・香取市里神楽事業
令和元年度と令和4年度に公演会を実施し、令和2年度と令和3年度は過去公演時の映像を基にDVDを作成した。特に令和4年度はコロナ禍明けながら、7団体が出演するなど活動再開に向けた動きが進んだ。

令和4年度山車実測調査事業

第七回香取市里神楽演舞会

R5.1.29

④ 自己評価

コロナ禍に直面したものの、多くの団体では再開に向けての動き出しや祭礼の開催が進んでいる。用具等の修理や記録保存のほか、再開に向けた支援や助言等を行った。

⑤ 今後の対応

伝統的な祭礼行事の保存と活用に向け、用具等の保存修理や公開の場を設けることで市内の民俗文化財の活性化を図る。

担い手不足、用具の修理・保管、修理の人材確保など多くの課題があるものの、各祭礼の状況に応じて適切な支援や助言を進めていく。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅳ歴史文化資産の調査と情報発信	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- ・課題
各歴史的風致の更なる調査、旧市町で設置した文化財看板等の表示のばらつきや老朽化、周知のための幅広いPRを行う必要がある。
- ・方針
市内に所在する指定文化財等の更なる調査・研究のほか、未指定文化財の調査や情報収集を進める。各種成果等を情報発信や市HPでのPR、文化財説明看板の整備等に繋げる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	国宝修理事業	伊能忠敬関係資料6点修理(R1～R5)	あり	H23～
2	文化財看板設置・修理事業	17件設置・修理(R1～R5)	あり	H18～
3	佐原・香取学習パンフレット・ガイドマップ配布事業	パンフレット3,120件、ガイドマップ37,703件配布(R1～R5)	あり	H29～
4	香取市文化財地図作成・発信事業	香取市文化財保存活用地域計画概要版に掲載	あり	R2～R4
5	文化財講演会の実施	講演会を4年間で8回開催	なし	R2～R5
6	文化財保存活用地域計画の作成	国庫補助を受けてR4.12.16認定	なし	R2～R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●調査関係事業

- ・香取市文化財保存活用地域計画作成に伴う調査
市内社寺等調査、小見川の歴史的建造物の分布調査・詳細調査、市内建造物・景観調査(4地区)を実施し、指定・未指定文化財の把握に努めた。

●情報発信関係事業

- ・文化財看板設置・修理事業
老朽化した看板の撤去・新設や修理、地元要望に応じて看板の設置の補助や助言等を行い、5年間で計17件実施した。

④ 自己評価

文化財保存活用地域計画作成を通じて、未指定文化財を含めた調査を行ったほか、文化財講演会の開催や講座等により地元を中心とした周知を実施した。
また、日本遺産を通じた文化財のPRや、市内に所在する文化財看板の修理・新設を行い、市内外への周知を進めた。

⑤ 今後の対応

香取市文化財保存活用地域計画が認定され、市全体を踏まえたビジョンが市内外に示された。歴史的風致維持向上計画は歴史的風致と重点区域を中心とするため、両計画を踏まえてより適切な文化財の保存・活用を進めていく。
地域計画で明らかになったこれまでの市内の調査を踏まえて、足りない内容や強みとなる内容に対しての調査を進めていくほか、日本遺産などを通じて市内外への周知を進める。



文化財講演会の様子 R5.3.4



文化財看板盤面の修繕

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年			
効果	i 文化財等の活用方法の拡大					
① 効果の概要						
祭礼等の文化財と関連した施設活用機会が増え、活用の幅が広がった						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	街なみ環境整備事業	あり	R1～R5			
2	都市再生整備計画	あり	R1～R4			
3	民俗文化財伝承・活用等事業補助金	あり	R1～R5			
重点地区周辺で不足していた休憩所の整備や、佐原駅近くの複合公共施設の整備により、様々な課題が解決された。特に後者では、国指定重要無形民俗文化財の佐原の山車行事の夏と秋の祭礼の際には情報発信、休憩所、駐車場やイベントに活用されるほか、特別曳き回しの際に施設内に山車が入るなど新たな活用方法が増加した。						
③ 効果発現の経緯と成果						
歴まち計画策定以前の重伝建地区内では、観光客や地元住民が休憩できるスペース、駐車場、人が集まれる空間等の不足が課題であった。こうした状況に対して、令和元年に街なみ環境整備事業で上川岸小公園（さわら町屋館）、令和4年度に複合公共施設（コンパス）が整備された。 重伝建地区の修景基準に沿った外観を有するさわら町屋館は、山車運行ルート上の休憩スペースや情報発信のほか、飲食店やレンタル衣装などが営業しており、内部の多目的スペースでは様々なイベントが行われている。 佐原駅と重伝建地区の動線上に新設されたコンパスは、図書館・ホール等貸出施設ほか、観光情報発信施設及び子育て世代支援施設等を備えており、多世代かつ数多くの市民等が来館している。イベントスペースに山車が入ることができる構造を有しており、特別曳き回しの際に山車がコンパス内に入っている。佐原の山車行事は夏と秋に各地区で祭礼があり、祭礼時は観光客休憩所のほか、図書館の祭礼特集、店舗出店などを行う。夏は駐車場となり、地元の秋は駐車場にキッチンカーを出すなどイベントスペースや山車運行時の休憩場所にもなっている。						
④ 自己評価						
新たな施設が整備されたことで、これまでにない文化財を活かした活用方法が広がっている。さわら町屋館は小野川沿いの景観に沿った形で活用され、コンパスは観光情報発信のほか、ホールを講演会会場としての周知、佐原の山車行事と連携した活用など、多様な形で歴史的風致の向上に寄与している。						
⑤ 今後の対応						
近年、民間で歴史的建造物を改装して店舗や宿泊施設として活用したり、修景基準に則った新築建造物も増えている。新たに整備された2施設は公共性を有することからイベント等の拠点としても今後さらなる活用が期待されている。歴史まちづくりを推進する上で行政と民間それぞれで協力し、文化財を活用しやすい環境づくりを進めたい。						



町屋館（写真左）前を通る山車



コンパス内に展示された山車

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年			
効果	ii 歴史的風致と調和する環境整備					
① 効果の概要 特に重点区域内で、歴史的風致と調和した公園整備、電線地中化、道路の美装化、歴史的建造物の修理等が進み、歴史的風致が向上した。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	街なみ環境整備事業	あり	R1～R5			
2	伝統的建造物群基盤強化事業補助金	あり	R1～R5			
3	香取市文化財保存活用地域計画	なし	R4～R5			
③ 効果発現の経緯と成果 重伝建区域内でかねてより進めていた小野川沿いの電線地中化、上川岸小公園（さわら町屋館）の整備を進めた。歩行者が歩きにくいことから、道路の美装化で車両と歩行スペースを明示した。また、歴史的建造物の修理や放置されていた景観阻害物件の撤去を行い、歴史的町並みの景観に沿う形で行政課題の解決を進めた。 香取市佐原伝統的建造物群保存地区保存整備事業では重伝建地区内の伝統的建造物等に対して5件の修理補助を実施した。 三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業は、地域のシンボルとなっているレンガ造りの県指定文化財の三菱銀行佐原支店旧本館（通称：三菱館）の耐震補強・復原を実施した。東日本大震災で香取市は大きな被害を受け、重伝建地区周辺でも多くの建物の瓦が落ち、液状化や電線の傾きなどが発生した。住民がいる建造物等の復興を優先してきた中で、三菱館は最後の修理として令和4年度より公開を再開した。竣工時には震災から10年を経て復興完了の象徴となったとされる新聞記事が出るなど、大きな反響があった。創建時の状態に復元された館内では、モバイルガイドやタッチパネルで周知や情報提供を行っている。						
						
		道路美装化施工状況				
						
		伝統的建造物の状況確認				
④ 自己評価 休憩場所や情報発信スペースの確保、歩行者の歩行空間の確保、歴史的建造物の修理など、課題の解決は着実に進んでいる。特に地域のシンボルでもあり、懸案であった三菱館の整備を完了できたことで、震災被害からの復興と新たな活用の段階に進むことができた。 修理した歴史的建造物の民間活用等も進んでおり、保存の基本を守りつつ活用できるよう適切な対応や助言等を進めている。						
		創建当初に復元された三菱館				
⑤ 今後の対応 着実に歴史的町並みの景観は向上しており、引き続き景観に沿った各種整備を進めていく。今後も県道沿いの電線地中化（県事業）や街灯のリニューアルが見込まれており、景観審議会などの意見を踏まえて実施していく。 指定や選定を受けている建造物についても、商店、飲食店、宿泊施設など様々な形で活用や修理が進められている。水運で栄えた商家の町としての歴史的風致の向上を目指していく。						

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	A 三菱銀行佐原支店旧本館保存整備事業	種別	歴史的風致維持 向上施設

① 取り組み概要

三菱銀行佐原支店旧本館は大正3年（1914）に川崎銀行佐原支店の店舗として、清水満之助店（現・清水建設）の設計施工で建てられ、煉瓦造二階建て、内部は一階の吹き抜けとなっている。川崎銀行は昭和18年に三菱銀行と合併して三菱銀行となり、以降「三菱館」として地元で親しまれてきた。三菱銀行新店舗建設に伴い建物は市に寄贈され、以降町並み案内の拠点として活用されてきた。

東日本大震災の際に被災し、耐震強度が不足していたことから休館が続いていたが、令和元年度から3年度にかけて耐震補強工事と復原・修復工事を実施し、令和4年度から内部の公開を再開した。

耐震補強は煉瓦壁の中に鋼棒を通し、鉄骨トラスを屋根裏と回廊に回すことで、補強材をほぼ見えない状態とした。建物内部はこれまで様々な活用により手が入っていたものの、創建時資料や古写真を基に内装等の復元を行い、国産大理石の暖炉、螺旋階段、受付カウンターを創建当初のものとしたほか、当初材のシャッターである「大野式防火巻上戸」を稼働できる状態にした。

竣工後の様子

屋根ドーム修理状況

② 自己評価

三菱銀行佐原支店旧本館は、東日本大震災で液状化や歴史的な建造物の被災があった香取市で、生活に直結しないため修理が後回しにされていた建物であった。保存修理工事を終えたことで、被災地の震災復興の象徴となるといった新聞記事も書かれるなど、地元のシンボルとして親しまれてきた建物の活用再開は前向きな反響が多かった。

副次的な効果として、文化財建造物の修理にあたって、創建当初を基準に復元を行うことや、当初材を極力保存しながら修理することを示すことができた。耐震補強工事と復原・修復工事の内容等を記載した保存修理報告書は市HPでダウンロード可能としているほか、館内でモバイルガイドやタッチパネルで周知や情報提供を行っている。

外部有識者名	丸山 純（元三菱銀行佐原支店旧本館保存修理検討委員会 会長）
外部評価実施日	令和6年3月

③ 有識者コメント

文化財建造物の保存修理工事では、できるだけ創建当時の形に復することと当初の部材を使用することがまずは基本である。今回の修理では当初から維持されてきたレンガ壁体（煉瓦色タイルで外装）を保存維持するために見えないところに耐震補強をしている。すなわち壁体内部を上から下へ貫くプレストレストコンクリート鋼棒、2階回廊に隠れるトラス梁、天井裏のトラス梁による構造補強である。修理工事報告書はこれらを含む工事の詳細を記録に止めるために作成され、冊子スタイルのままPDFファイルがウェブ上に公開された。

しかし見学者は現場のタッチパネルや報告書公開によってもなお工事の内容を十分には理解しがたい。工事をよく理解した解説員との対話による理解が不可欠であろう。さらには適切な指導に基づく中学生等による模擬銀行業務体験、すなわち行員と客のロールプレイング等の、銀行遺構の金融教育への活用も効果的であろう。

④ 今後の対応

三菱館は保存修理工事後、内部の公開やモバイルガイドのほか、市HPで保存修理工事報告書等を公開している。現地での周知については町並み観光案内と連携して進めたい。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	B 複合公共施設整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

かねてより老朽化が進んでいた佐原中央公民館・佐原中央図書館について、建替えのほか様々な現代的な要望に応える施設の設置が求められており、図書館・公民館に近接する未利用地に新規設置が検討されていた。

令和3年度・4年度にかけて施設整備工事を実施し、令和4年12月に「みんなの賑わい交流拠点コンパス(KOMPAS)」としてオープンした。図書館・ホール等貸出施設ほか、観光情報発信施設及び子育て世代支援施設等を備えた複合施設として、毎月の平均来館者数は4万人超と、新たな人の流れを創出している。コンパスの名称は地元の偉人である伊能忠敬が杖先羅針盤を使用したことに由来し、ロゴマークは伊能図の方位を示すコンパスローズをイメージしたものとなっている。

コンパスは佐原駅から観光の中心地である歴史的町並みがある地域までの動線上にあることから、観光案内や休憩所等の機能のほか、不足する観光駐車場の機能を補完することも期待されている。

維持管理運営は民間ノウハウによる効率化等を図るため、指定管理者制度を活用し、賑わいの創出を図っている。



コンパス全景



コンパス内に展示された山車

② 自己評価

コンパスが設置されたことで、最新の設備を備えた図書館・ホール等貸出施設が市民等へ供与されることとなり、パソコンやプロジェクターなどの設備を使用するイベントの開催が容易となった。また、様々な機能を有する施設として他自治体や各種団体からの視察が多く行われている。

生涯学習課文化財班としては、会議や講演会の会場としての使用のほか、文化庁主催で全国自治体が集まり3泊4日で行う研修の会場として使用し、おおむね好評であった。

また、校外学習等で小中学校等が歴史的な町並みを訪れる際、これまで大人数での昼食の会場や休憩場所が不足していたが、コンパスがそうした役割を担うことで懸案の解消にもつながっている。

外部有識者名	千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 寺木彰浩教授
外部評価実施日	令和5年9月6日

③ 有識者コメント

コロナ禍の中で供用開始（令和4年12月）となったこと、また供用後、事後評価まで8か月間という短い期間も影響がある中、施設整備後の利便性向上がアンケートにより明らかになり、市民満足度に係る一定の整備効果が見られた。

これまで複合公共施設や佐原駅の駅舎などの点的な施設整備が行われたが、今後は面的な市街地整備が必要であると感じる。

④ 今後の対応

コンパスの整備により賑わいや交流の拠点としての機能が創出され、多世代かつ数多くの市民等が来館しており、様々な市民活動や佐原の大祭に合わせたイベント等が開催されるなど、施設整備前に見られなかった新たな人の流れや賑わいの兆しがみられる。この兆しを更なる賑わいの好循環や歴史的風致の維持向上の契機とするため、市民と山車等の文化財が身近に接する機会を積極的に設けるなど、コンパスと地域との更なる連携強化を図っていく。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	1 佐原の町並みと山車行事に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物や歴史的町並みの保存と活用 II 歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備 III 伝統的な祭礼行事の継承と記録 IV 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

香取市佐原は江戸時代には佐原河岸ともよばれ、下利根随一の商業都市として発展した。江戸時代から商業の町として繁栄した佐原には、現在も江戸時代からの老舗商家の建物が残り、営業を続けている。平成8年(1996)に関東で初の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

佐原の山車行事は、歴史的町並みを残す佐原の中心市街地を中心に、本宿・八坂神社の祇園祭、新宿・諏訪神社の諏訪祭で、氏子町内全域で付け祭りとして行われてきた祭礼行事である。

店舗や土蔵などの歴史的建造物が建ち並ぶ町並みを背景に、佐原囃子の調べのもと、山車が曳き廻される様は、独特の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業

令和元年度から令和3年度にかけて保存修理工事を実施し、令和4年度は報告書の刊行を行った。東日本大震災以来閉館していたが、耐震補強と創建当初への復原を目指して事業を進め、令和4年4月から公開を再開した。

●複合公共施設整備事業

令和3年度・4年度にかけて事業を実施し、令和4年12月にオープンした。地域の情報発信及び図書館・公民館機能を有した施設として使用されている。

●香取市佐原伝統的建造物群保存地区保存整備事業

重伝建地区内の伝統的建造物について、所有者の要望を基に対応可能な建造物について保存整備を実施した。

●山車保存整備事業

佐原の山車行事で使用する山車や用具について、令和元年度から令和5年度にかけて修理を実施した。本宿10町内、新宿14町内の山車があり、各町内からの要望と文化庁等々の協議のうえで実施する。



R1.9



修理中・修理後の様子

R4.7

③ 自己評価

三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業が完了したことで、文化財修理の規範を示すことができたほか、東日本大震災で大きな被害を受けた香取市佐原の町並みの復興が進んだことを市内外にアピールすることに繋がった。

複合公共施設整備事業や重伝建地区内の建造物の保存整備等を進め、地区内での新規出店等が増えた。



コンパス正面

④ 今後の対応

当該歴史的風致は市内重点地区内でも中心となるものである。三菱銀行佐原支店旧本館保存修理事業と複合公共施設整備事業は長年の懸案を解決するものとなった。

このほか、公園整備事業や空き家の撤去など重伝建地区内の回遊性や安全性を向上するための事業を進め、建造物や山車の保存修理事業を継続して実施している。引き続き課題解決に努めることで、歴史的風致の維持向上を進めていく。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	2 伊能忠敬(ちゅうけいさん)に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物や歴史的町並みの保存と活用 III 伝統的な祭礼行事の継承と記録 IV 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

香取市を代表する人物であり、日本で初めて実測による日本地図を作製した伊能忠敬は小野川沿いの旧家である伊能三郎右衛門家の出身である。その旧宅は国指定の史跡となり、また、その関係資料2,345点は国宝となり、伊能忠敬記念館で収蔵、展示されている。

明治期以降にその顕彰が行われるようになり、地元佐原では大正8年(1919)に佐原公園に伊能忠敬銅像が建立された。現在でも、地域住民の尊敬を集める人物で、親しみをこめて「ちゅうけいさん」「ちゅうけい先生」などとも呼ばれている。

② 維持向上の経緯と成果

● 国宝資料修理事業

国宝の伊能忠敬関係資料について、計画を決めた上で毎年数点ずつ修理を行っている。令和元年度から令和5年度にかけて、5件6点の修理を実施した。

● 顕彰活動及びイベントの実施

平成30年度に没後200年事業で佐原駅前に新たに伊能忠敬の銅像が設置され、令和3年度には伊能図完成200年シンポジウムが実施された。令和5年度の特別展では北九州市のゼンリンミュージアムの伊能小図を借用して開催するなど、様々な団体等と連携しながら周知に努めた。

● 伊能忠敬旧宅の整備

敷地内での毀損に対応した修理や、より見やすい看板等の整備を実施した。令和5年度には伊能忠敬旧宅土蔵の修理を国庫補助で行い、下見板や漆喰等を修理した。



国宝修理納品状況



シンポジウム看板

③ 自己評価

令和2年度に没後200年事業で特別展を開催するなど各種事業が行われ、顕彰事業として広くPRすることができた。コロナ禍により伊能忠敬記念館の閉館などの影響もあったが、再開後は徐々に入館者数がコロナ禍前の数に戻りつつある。国宝の伊能図のほか旧宅敷地内や土蔵の整備などが進み、良好な歴史的風致が維持向上されている。



伊能忠敬旧宅土蔵修理状況

④ 今後の対応

郷土の偉人である伊能忠敬の功績等について、伊能忠敬記念館や伊能忠敬旧宅を通じて市内外への周知を引き続き進めていく。国宝資料修理事業は今後も修理計画があるため、こちらについても引き続き修理を進めていく。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	3 小見川の町並みと祇園祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物や歴史的町並みの保存と活用 III 伝統的な祭礼行事の継承と記録 IV 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

香取市小見川は、江戸時代には黒部川の河口を中心に、利根川舟運の一拠点である小見川河岸として発達してきたことが、町の発展の主要因となった。近年は黒部川での船の往来は少なくなっているが、その名残であるダシが各所に残されている。

黒部川西岸側にある須賀神社で、毎年7月中旬頃の三日間行われる祇園祭は、小見川の町並みで大きな活況を見せており、神輿渡御に加えて、氏子6町内の山車が曳き廻されるなど、江戸時代からの祭礼の様相を今に伝えている。

② 維持向上の経緯と成果

●小見川祇園祭の再開

認定後、引き続き祭礼が行われていたが、コロナ禍の蔓延により祇園祭が中止となった。令和5年度には祇園祭を再開し、全6町内の山車が曳き回された。

●小見川の町並み調査

令和2年度と3年度に文化財保存活用地域計画作成に関連して、小見川の町並みの調査を行い、分布調査では141件の歴史的建造物を確認し、専門調査としてそのうち33件の建造物の調査を行った。



小見川祇園祭曳き回しの様子

調査年度	調査対象	調査内容	調査結果	調査方法	調査者	調査日	調査時間	調査場所	調査対象の概要	調査結果の概要	調査結果の詳細	調査結果の活用	調査結果の公表	調査結果の活用	調査結果の公表
令和2年度	小見川町並み調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査
令和3年度	小見川町並み調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査
令和4年度	小見川町並み調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査
令和5年度	小見川町並み調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査	小見川町並みの調査

建造物調査台帳

③ 自己評価

小見川地区の主要祭礼である小見川祇園祭が令和5年度から再開された。また、コロナ禍の時期に小見川地区の町並み調査を2か年わたり実施し、歴史的建造物の洗い出しを行うことができた。

④ 今後の対応

かつて江戸時代には小見川藩があり、中心部には町並みが形成され山車を用いた祭礼が行われている。引き続き記録や調査を行い、価値の洗い出しを進める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	4 香取神宮信仰と式年神幸祭に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅲ 伝統的な祭礼行事の継承と記録 Ⅳ 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

香取神宮は古来より下総国一宮として、広く崇敬を集めてきた古社である。香取神宮では、御田植祭や神幸祭など6件の大祭や、元始祭や団基祭など10件の中祭など、各種祭礼が年間通して執行されている。

香取神宮で12年に一度、午年に斎行される式年神幸祭は、年中祭典で行われる神幸祭の延長線上にあるものであるが、式年祭であることからその供奉行列の範囲は拡大し、香取神宮周辺のみならず、西方に4kmほど離れた佐原市街地（本宿地区、新宿地区）まで及び、参加氏子も大規模なものとなっている。

② 維持向上の経緯と成果

●祭礼等の実施状況

認定後、引き続き祭礼が行われていたが、コロナ禍の蔓延により多くの祭礼が縮小・中止となった。手水舎の柄杓を撤去して流水で手を洗う形式とし、特に多くの参拝客が訪れる正月には、分散参拝の呼びかけや、一度に境内に入れる人数を制限するなど、各種対策が図られた。

令和5年度には多くの祭礼がコロナ禍前に近い状態へと戻りつつある。また、香取神宮・鹿島神宮・息栖神社を巡る東国三社参りの流行などの影響もあり、香取神宮の参拝客は増加傾向にある。



香取神宮本殿及び透塀 R4.2.3

●境内整備事業

令和8年4月の式年神幸祭に向け、境内の整備を進めている。本殿透塀の修理、楼門の塗り直し、防災施設の整備、宝物館・祈祷者控室の整備などが行われている。

●文化財の新規指定等

令和3年度に県指定文化財（有形・建造物）として香取神宮勅使門が指定されたほか、市指定文化財（有形・歴史資料）として、香取神宮木造八龍神像が指定された。



香取神宮楼門修理外観 R6.2.27

③ 自己評価

コロナ禍の蔓延により多くの祭礼が縮小・中止となったものの、令和4年度から境内地外を含む祭礼の再開が進んだ。令和8年4月の式年神幸祭に向けて各種整備事業が行われており、様々な方向から維持向上が図られている。

④ 今後の対応

令和8年4月には12年に一度の式年神幸祭が行われるため、記録や確認を行う。また、式年神幸祭に向けた各種境内整備事業が進められており、国庫補助金等の各種補助を受けて実施している事業もあるため、適切な執行に努める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	5 側高神社のひげなで祭に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 伝統的な祭礼行事の継承と記録 Ⅳ 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

側高神社は、香取神宮の第一摂社とされている。摂社とは、本社と縁の深い神を祀った神社で、古来より本社の香取神宮とともに造替がおこなわれている。

側高神社のひげなで祭は、氏子による当番引継ぎ行事である。当番を含めて地区の氏子の多くが参加する行事で、その範囲は大倉地区全体に広がるものである。古くからのしきたりを守りながらもひげなで祭は守り伝えられてきており、また、ひげなで祭の終了後には、多くの参加者、見物客が竹串のサカナを手には家路につく光景が見られるなど、良好な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

● 祭礼等の実施状況

認定後、引き続き祭礼が行われていたが、コロナ禍の蔓延により令和2年度・3年度の2年間は祭礼が中止となった。野外での実施ではあるものの、酒を飲み交わす祭礼の特徴から実施を控えたものである。

令和4年度は地元の当番区の強い要望で祭礼が再開された。祭礼実施前の全員検査など、十分な対策を行った上で実施し、例年は紋付き袴で行うが今回は揃いの半纏を用意して実施した。

また、文化庁の地域の伝統行事等のための伝承事業（公開支援）のうち、2つの支援（専用サイトによる情報発信、伝統行事等の撮影とオンラインによる情報発信）を受けて実施した。開催にあたって慎重な声もあったものの、再開にあたり積極的な周知が図られた。

令和5年度も祭礼が行われ、地元関係者のほか外からの観客を集めた。祭礼の様子がNHKニュースなどで放送されるなど、メディアの露出も見られた。

地元の当番を担う組によって対応は様々であるものの、再開・継続に向けて積極的な姿勢が確認でき、今後の継続が見込まれる。



再開時の状況

R5.1.9



新聞掲載状況（東京新聞）

R2.1.9

③ 自己評価

コロナ禍で2年間の中止を余儀なくされたものの、地元の熱意もあり無事再開することができた。特徴的な祭りとして知られていたこともあり、様々な支援等を受けながら実施することができた。また、県指定の側高神社本殿の文化財説明看板のリニューアルを行うなど、境内整備も進んだ。

④ 今後の対応

コロナ禍前から奇祭として注目されていた祭りでもあり、地元の努力もあって継続的に実施されている。適宜対応可能な補助メニューの提示や祭礼の周知に努め、次世代へ継承し続けられるような対応を進める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	6 山倉大神の鮭祭りに見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅲ 伝統的な祭礼行事の継承と記録 Ⅳ 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

山倉大神の創建は弘仁2年(811)辛卯の霜月初卯の日で、この地方に疫病が流行した際に、祭神を勧請したとされる。現在の主祭神は、高皇産霊大神(たかみむすびのおおかみ)、配祀神は建速須佐男尊、大国主尊となっている。山倉大神の鮭祭りは、弘仁2年(811)辛卯の霜月初卯の日という山倉大神の創建にも係わる祭礼であり、かつては旧暦霜月初卯の日に鮭を奉献したことから「初卯祭」とも称している。

山倉大神の鮭祭りは、地域としての自然的な要因を持ちながら、長く地区民により受け継がれてきたことから、今もその歴史的風致が守られてきている。

② 維持向上の経緯と成果

●祭礼等の実施状況

認定後、引き続き祭礼が行われていたが、コロナ禍の蔓延によりこれまで通りの実施が困難となった。その間、規模を縮小して祭礼の主要な内容のみを境内の範囲内でのみで実施した。

令和4年度からは徐々に内容を以前に近い形に復しての実施となったが、まだ完全に同様とはなっていないほか、人間的に同様に実施することが難しくなっている。そうした中でも地元で継続して祭礼を実施していく意向は強く、今後の継続的な実施が見込まれる。



鮭祭り実施状況

R5.12.3

●山倉大神での動き

令和3年度夏には、境内にコロナ神の石祠を設置し、新聞記事等で取り上げられるなど話題となった。元々境内にあった疱瘡神の石祠に倣い、新型コロナウイルスを神格化し、疫病退散を願うために祀られたものである。

令和4年度に文化財説明看板のリニューアル、令和5年度には山倉大神の御由緒書きをリニューアルするなど、コロナ禍の中でも継続的に様々な活動が行われており、地元地区の活動の拠点として機能している。



石祠新聞記事(千葉日報) R3.6.1

③ 自己評価

コロナ禍やその後も地元で積極的な動きがあり、様々な活動が続いている。関係者・後継者の不足といった問題はあものの、コロナ神石祠の設置、文化財説明看板更新、山倉大神御由緒書き更新などを進めており、良好な歴史的風致の維持向上がなされている。

④ 今後の対応

山倉大神では地元の熱意もあり様々な事業が行われている。適宜対応可能な補助メニューの提示や祭礼の周知に努め、次世代へ継承し続けられるような対応を進める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	7 十二座神楽に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 伝統的な祭礼行事の継承と記録 Ⅳ 歴史的文化資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

現在、香取市域で奉納されている6つの十二座神楽は、各地区の地元の鎮守の神社で奉納されるものである。江戸時代の中頃から明治中期にかけて始まり、戦時中あるいは戦後の後継者不足による存続の危機を乗り越えて今日まで継承されてきたものである。

その分布は、香取市域の東側、合併前の旧小見川町、旧山田町に限られている。それぞれを比較すると、各所の演目数や名称、稚児舞披露の有無など、違いがある。しかしながら、全体の演目としては、12演目13神を基本として構成されていること、猿田彦命に始まり、素戔鳴命のメ切で終わることなど、多くの共通点も見いだせる。

② 維持向上の経緯と成果

認定後、各地で引き続き祭礼等での奉納が行われていたが、コロナ禍により数年間の中断を余儀なくされた。その期間、保存会等での会合や練習ができない時期が続いた。

令和5年1月には第七回香取市里神楽演舞会を開催し、市内で獅子神楽・獅子舞、十二座神楽を行う7団体が演舞を行い、約400名を集めるなど盛況であった。令和5年に入ってから中止していた多くの祭礼が再開しており、祭礼の維持ができていと考えられる。

令和4年度には、愛宕神社神楽、木内神楽、山倉大神白川流十二座神楽が再開され、観客を入れて神楽の披露を行っており、令和5年度には長岡稲葉山神社神楽、新里白川流十二座神楽、境宮神楽が再開となった。また、山倉大神白川流十二座神楽の披露を行う山倉芸能保存会は民間助成を受けて用具の修理や新調を行うこととなっている。



愛宕神社神楽

R6.2.24



山倉大神白川流十二座神楽

R5.4.2

③ 自己評価

関係者や後継者不足に悩まされていた中でコロナ禍を迎え、保存会等での会合や練習ができなくなる時期もあった中、令和4年度から徐々に再開の動きが見られる。令和4年度の冬に再開できなかった団体でも、令和5年度の冬には再開する団体もあるなど、更なる活動再開の動きが進んでいる。

④ 今後の対応

各団体の状況により様々な事情があるが、コロナ禍以後各団体の神楽の再開が進んでいる。適宜対応可能な補助メニューの提示や祭礼の周知に努め、次世代へ継承し続けられるような対応を進める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	8 獅子神楽・獅子舞に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 伝統的な祭礼行事の継承と記録 Ⅳ 歴史的文化的資産の調査と情報発信		

① 歴史的風致の概要

二人立ちの獅子神楽は、ここで取り上げる6件のほか、与倉地区、片野地区、堀之内地区、牧野地区、休止中の高萩地区などを加えると、市域の中央部及び西部の、主に佐原地区、栗源地区に広く分布している。一方、獅子舞（三匹獅子）としては、多田と返田の他に、玉造・新寺地区、津宮地区、佐原八日市場地区、一ノ分目地区などで残されているが、その分布は上記の獅子神楽よりも狭く、市域中央部から北側、利根川南岸域にかけての範囲となる。

いずれの神楽も氏子などにより地区の鎮守の祭礼で奉納されるもので、当日は神楽のお囃子と集まった人々で賑わう風景が見られ、今にその歴史的風致が守られてきている。

② 維持向上の経緯と成果

認定後、各地で引き続き祭礼等での奉納が行われていたが、コロナ禍により数年間の中断を余儀なくされた。その期間、保存会等での会合や練習ができない時期が続いた。

令和5年1月には第七回香取市里神楽演舞会を開催し、市内で獅子神楽・獅子舞、十二座神楽を行う7団体が演舞を行い、約400名を集めるなど盛況であった。令和5年に入ってから中止していた多くの祭礼が再開しており、祭礼の維持ができていと考えられる。



第七回香取市里神楽演舞会 R5.1.29

令和4年度以降、大崎神楽、新市場神楽、多田獅子舞などで再開の動きが見られる。大崎神楽は令和2年に民間助成を受けて用具の修理や新調を行っており、コロナ禍前は地元例祭での披露のほか、民間イベントや老人ホームでの披露を行うなど、積極的な活動を行っている。



里神楽チラシ

③ 自己評価

関係者や後継者不足に悩まされていた中でコロナ禍を迎え、保存会等での会合や練習ができなくなる時期もあった中、令和4年度から徐々に再開の動きが見られる。令和4年度の冬に再開できなかった団体でも、令和5年度の冬には再開する団体もあるなど、更なる活動再開の動きが進んでいる。

④ 今後の対応

各団体の状況により様々な事情があるが、コロナ禍以後各団体の神楽の再開が進んでいる。適宜対応可能な補助メニューの提示や祭礼の周知に努め、次世代へ継承し続けられるような対応を進める。

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
① 庁内組織の体制・変化 香取市歴史的風致維持向上計画策定にあたっては、生涯学習課と都市整備課が計画を作成し、主に生涯学習課文化財班が計画の進捗管理等を担っている。 生涯学習課と都市整備課は適宜協議しながら各種事業や評価シートの作成等を進めている。また、複合公共施設整備事業で企画政策課、日本遺産活用事業で商工観光課など、事業ごとに適宜協議を行いながら進めている。 本計画策定時には香取市歴史的風致維持向上計画策定検討委員会を開催し、庁内関係各課への方向等を進めていたが、計画策定後は各事業ごとに適宜協議を進めていた。中間評価シート作成にあたっては、特に関係のある担当課（生涯学習課、都市整備課、企画政策課）で香取市歴史的風致維持向上計画庁内検討会議を開催（令和6年2月29日）し、中間評価シート作成にあたっての協議や今後の事業の追加などについて検討を行った。 <pre> graph TD A["香取市歴史的風致維持向上計画協議会 【計画案の検討】 構成：学識経験者、文化財所有者、まちづくり団体、行政等 「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」第4条の規定による歴史的風致維持向上基本方針に基づく、本市の歴史的風致維持向上計画の作成等に関する協議等を行うため、同法第11条第1項の規定による協議会"] B["香取市歴史的風位維持向上計画策定検討委員会 【計画案の検討】 ・企画政策課 ・農政課 ・商工観光課 ・都市整備課 ・教育総務課 ・生涯学習課"] C["事務局 【計画案の検討・作成】 ・生涯学習課 ・都市整備課"] A -- 意見 --> B B -- 提案 --> A C -- 報告 --> B B -- 提案 --> C </pre> 歴史まちづくりの体制（計画策定時）			
② 庁内の意見・評価 ・複合公共施設整備事業（都市再生整備計画で補助率加算）により、令和4年12月に「みんなの賑わい交流拠点コンパス（KOMPAS）」がオープンした。公共施設的な機能のほか、佐原駅と重伝建地区を繋ぐ情報提供や休憩施設としての機能や、佐原の山車行事などと連動した様々な活用が広がっている。 ・重伝建地区については各種事業により着実に歴史的風致が向上している。公園整備、電線地中化、道路の美装化、景観阻害建造物の除却等を進めた。 ・三菱銀行佐原支店旧本館保存整備事業（街なみ環境整備事業で補助）の整備を完了することができ、東日本大震災被災地の震災復興が進んだことを示すことができ、地元のシンボルとして親しまれてきた建物の公開再開に至った。 ・香取神宮と佐原の町並みについて、より双方向の繋がりを強化できないか。両者をつなぐ狭い街道の整備や香取神宮のボランティアガイド等の対応が考えられる。			

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年																																				
① 住民意見 香取市第2次総合計画後期基本計画策定時に行われた市民アンケート（令和4年5月～6月実施）では、市のイメージとして「歴史と伝統文化（祭事等）」に包まれたまちが、前回調査（平成29年度）に続き最上位となり、数値も向上した。 3. 市のイメージ 【市民意識調査】 本市のイメージに関する調査の結果、「気候が温暖で、生活しやすいまち」「地域行事や各種イベントが多く、活気あるまち」の割合は減少しましたが、「歴史・伝統文化」「自然環境」「農業」「暮らしやすさ」の上位4項目は前回調査と変わりなく、市のイメージに変化はないとの結果になりました。 <table border="1"> <caption>「香取市第2次総合計画後期基本計画」(令和5年<2023>)より</caption> <thead> <tr> <th>イメージ</th> <th>今回調査 <令和4年実施> (n=1,067)</th> <th>前回調査 <平成29年実施> (n=1,355)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>歴史と伝統文化（祭事等）に包まれたまち</td><td>59.0%</td><td>57.1%</td></tr> <tr><td>田園風景や里山景観など豊かな自然環境に恵まれたまち</td><td>57.0%</td><td>53.5%</td></tr> <tr><td>農業が盛んで、新鮮でおいしい食材が多いまち</td><td>43.1%</td><td>41.7%</td></tr> <tr><td>気候が温暖で、生活しやすい環境であるまち</td><td>40.5%</td><td>46.8%</td></tr> <tr><td>観光資源が豊富にある観光客で賑うまち</td><td>9.2%</td><td>6.9%</td></tr> <tr><td>市民の人情や気質の良いまち</td><td>8.7%</td><td>8.4%</td></tr> <tr><td>住環境が良く、快適な生活を送れるまち</td><td>5.7%</td><td>6.1%</td></tr> <tr><td>地域行事や各種イベントが多く、活気あるまち</td><td>2.6%</td><td>7.8%</td></tr> <tr><td>外から来た人を温かく受け入れる、おもてなし精神にあふれるまち</td><td>1.7%</td><td>2.5%</td></tr> <tr><td>外国人が多く訪れる国際的なまち</td><td>0.5%</td><td>0.7%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.4%</td><td>3.2%</td></tr> </tbody> </table> 「香取市第2次総合計画後期基本計画」(令和5年<2023>)より				イメージ	今回調査 <令和4年実施> (n=1,067)	前回調査 <平成29年実施> (n=1,355)	歴史と伝統文化（祭事等）に包まれたまち	59.0%	57.1%	田園風景や里山景観など豊かな自然環境に恵まれたまち	57.0%	53.5%	農業が盛んで、新鮮でおいしい食材が多いまち	43.1%	41.7%	気候が温暖で、生活しやすい環境であるまち	40.5%	46.8%	観光資源が豊富にある観光客で賑うまち	9.2%	6.9%	市民の人情や気質の良いまち	8.7%	8.4%	住環境が良く、快適な生活を送れるまち	5.7%	6.1%	地域行事や各種イベントが多く、活気あるまち	2.6%	7.8%	外から来た人を温かく受け入れる、おもてなし精神にあふれるまち	1.7%	2.5%	外国人が多く訪れる国際的なまち	0.5%	0.7%	その他	3.4%	3.2%
イメージ	今回調査 <令和4年実施> (n=1,067)	前回調査 <平成29年実施> (n=1,355)																																					
歴史と伝統文化（祭事等）に包まれたまち	59.0%	57.1%																																					
田園風景や里山景観など豊かな自然環境に恵まれたまち	57.0%	53.5%																																					
農業が盛んで、新鮮でおいしい食材が多いまち	43.1%	41.7%																																					
気候が温暖で、生活しやすい環境であるまち	40.5%	46.8%																																					
観光資源が豊富にある観光客で賑うまち	9.2%	6.9%																																					
市民の人情や気質の良いまち	8.7%	8.4%																																					
住環境が良く、快適な生活を送れるまち	5.7%	6.1%																																					
地域行事や各種イベントが多く、活気あるまち	2.6%	7.8%																																					
外から来た人を温かく受け入れる、おもてなし精神にあふれるまち	1.7%	2.5%																																					
外国人が多く訪れる国際的なまち	0.5%	0.7%																																					
その他	3.4%	3.2%																																					
② 協議会におけるコメント ○計画の進捗状況・達成状況に対する評価 歴史的風致維持向上計画に基づき、各種取り組みが積極的に行われていると感じる。一方で、少子高齢化による文化財の保存・活用の担い手不足が香取市域内でも懸念される。行政だけではなく、地域住民や民間組織と連携した取り組みが推進されるとよい。 ○計画の今後の進め方・改善点などについて 歴まち事業の業務が拡大している中で、今後の円滑な運営を図る上でも、生涯学習課、都市整備課、企画政策課、商工観光課の各担当を統合させて仮称「歴まち課」など独立部局を創設すべきだと考える。そうすれば、この事業を対外的にまた市民向けに政策アピールする観点からも有効であると考えます。 計画の推進体制をより強化し、関係機関との連携を図っていただきたい。また、専門的な知識を有する行政職員を計画的に採用するなど、計画が円滑に実施できる体制を維持していただきたい。																																							

市町村名	香取市	評価対象年度	R1～R5年
① 全体の課題 ・現在の状況 香取市歴史的風致維持向上計画の認定を受けて5年目を迎え、懸案事項であった三菱銀行佐原支店旧本館保存修理工事と複合公共施設整備事業がそれぞれ完了し、大規模事業が無事に進んだことで一旦は落ち着きつつある状況である。 ①歴史的風致に関わる歴史的建造物等の保存・活用 市内には多くの歴史的建造物が所在するが、指定・未指定に限らず建物の維持管理が所有者の負担となっている。特に未指定の歴史的建造物は価値の顕在化が図られないまま滅失する可能性もある。 ②歴史的風致に関わる人々の活動に対する支援 コロナ禍で多くの祭礼等が中止を余儀なくされたものの、ほとんどが再開されつつある。歴史的風致で取り上げているものとそうでないものも含め、関係者の高齢化や担い手不足の中にあるところが多い。また、用具の維持管理や修繕に問題を抱える団体等も確認されている。 ③歴まち計画の展開 大規模事業が完了したことから、今後の香取市の歴まち計画の方向性を改めて検討する必要がある。施設整備が進んだため、これらを生かす事業や方策の検討が望まれる。また、歴まち計画の周知および歴まちカードの展開など、更なる歴まち計画を活用した周知を行う必要がある。			
② 今後の対応 ①歴史的風致に関わる歴史的建造物等の保存・活用 保存修理に対する所有者の負担軽減につながる方策の検討や指定・未指定に関わらず建造物の調査を進める。また、建造物等の活用の事例等の情報収集を行い、所有者の建造物活用の要望に応えやすい体制を整え、歴史的建造物等の保存・活用を進める。 ②歴史的風致に関わる人々の活動に対する支援 少子高齢化による文化財の保存・活用の担い手不足が香取市域内でも進んでいる。行政だけではなく、地域住民や民間組織と連携した取り組みを推進したい。里神楽の開催のほか、文化財講演会や各種講座での周知や、民間団体主催のイベント等開催の機運を高めていく。また、民俗文化財関係の用具の修理等についても適切な周知を行い、所有者の負担軽減等にも繋げたい。 ③歴まち計画の展開 計画の推進体制の強化や、内部連携の推進、関係機関との連携を図り、歴まち計画の展開を進めたい。歴まち計画のもと整備されたハード施設を活用したソフト事業の展開、日本遺産「北総四都市江戸紀行」を通じたPR、香取市文化財保存活用地域計画の推進、歴まちカードの活用を進め、香取市の歴史的風致の維持向上を図りたい。			